胃内視鏡検査　説明文書

1. 検査の目的・方法

胃内視鏡検査は、のどに局所麻酔による前処置後、口から内視鏡を挿入し、食道・胃・十二指腸を観察します。食道がん、胃がん、胃・十二指腸潰瘍、胃ポリープ、逆流性食道炎、胃炎などの有無や病気の程度を診断することを目的として行います。検査時間は通常 5〜15 分程度です。

鎮静剤・鎮痛剤を希望される場合は、年齢・体格・全身状態などに応じて必要最小限の量を静脈から投与します。苦痛や不安、嘔吐反射を軽減できますが、検査中の記憶が残らないことがあります。また、全身状態等により使用できない場合や十分な鎮静が得られない場合があります。急性閉塞隅角緑内障・重症筋無力症の方は鎮静剤を使用できません。

病変を認めた場合は、診断のため組織検査（生検）を行うことがあります。

2. 検査に伴う副作用・偶発症

内視鏡検査や組織検査により、のどの痛みや腹部膨満感、誤嚥、嘔吐、出血、まれに穿孔（消化管に穴があくこと）などが起こることがあります。

鎮静剤・鎮痛剤では、眠気、ふらつき、血圧低下、吐き気のほか、呼吸抑制、酸素飽和度低下、徐脈、アレルギー反応などを生じ、極めてまれに重篤な呼吸・循環障害やショックを起こすことがあります。

副作用・偶発症が生じた場合は、酸素投与、点滴、拮抗薬、止血処置、気道確保など必要な処置を行い、必要に応じて高次医療機関への搬送、入院、輸血、緊急手術等を行います。これらの診療費は通常の診療と同様に患者様のご負担となります。これらの副作用・偶発症により死亡に至ることは極めてまれですが、鎮静剤の使用に関連した死亡は、報告上、数万〜十数万件に 1 件程度とされています。

3. 検査後の注意事項

組織検査を行った場合は、当日の飲酒を控えてください。

鎮静剤・鎮痛剤を使用した場合は、当日の自動車・オートバイ・自転車等の運転はできません。帰宅には公共交通機関やタクシーをご利用ください。授乳中の方は投与後 24 時間以降に搾乳してから授乳してください。

帰宅後に強い腹痛、持続する嘔吐、息苦しさ、胸痛などの異常がある場合は当院へご連絡いただき、夜間・休日は救急医療機関を受診してください。

4. 検査についてのお願い

抗血栓薬（血液を固まりにくくする薬）を服用中の方は、必ず事前にお申し出ください。安全に検査や処置を継続できないと医師が判断した場合は、中止することがあります。

同　意　文　書

私は、胃内視鏡検査について、検査の方法、鎮静剤・鎮痛剤の使用、組織検査、副作用・偶発症、検査後の注意事項について説明を受け、質問する機会があり、その内容を理解した上で、胃内視鏡検査を受けることに同意します。なお、本同意は検査開始前であればいつでも撤回することができ、撤回した場合であっても、その後の診療上何ら不利益を受けることはありません。

【組織検査（生検）について】

□ **所見があれば組織検査を希望します。**

□ **所見があっても組織検査を希望しません。**

同意年月日　　年　　月　　日

ご署名　＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿（**続柄**　　）
（本人に同意能力がない場合は代理人の方が署名してください。）

【本日検査中の緊急時連絡先】

□ ご本人以外の緊急連絡先をご記入ください。

名前＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿続柄＿＿＿＿＿＿＿＿TEL　　-　　-

※同意文書のコピーが必要な方はお申し出ください。

お茶の水駿河台クリニック